

1. インナーシティ対策について

（北山議員）

久元市長、当選おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。市民のためにがんばってほしい。選挙が終わってから、いろんなところに出て行ったときに、「久元市長が当選したが、あなたが言うように本当に大丈夫か」と質問を受ける。私は全く心配ありませんと断言しているので、全力でがんばっていただくようお願いする。

ノエビスタジアムは市街地西部地域活性化策の一つとして整備された。しかし、現状の利用状況を聞くと年間 80 日しか利用されていない。あれだけの施設が全く有効に活用されていない。市長が以前勤務されていた札幌市のスタジアムは、芝の入れ替えが可能であるため、サッカーだけでなく野球、コンサート、展示会など、年間かなりの日数を稼働しており、来場者数も相当なものだと聞いている。市長もよくご存じのことだと思う。早急にノエビスタジアムの芝の問題を解決し、コンサートや展示会のイベント誘致により、現在のような年間 80 日の利用ではなく、年間 80 日しか休まない状況にすべきではないかと考える。三宮の再整備やコンベンションセンターの再整備に莫大な金額を投じるのであるから、インナー地域のシンボルであるノエビスタジアムにもお金をかけ、思い切った大改造をしていくべきと考えるが、いかがでしょうかお伺いする。

（鳥居副市長）

ノエビスタジアムは現在 80 日程度の稼働であるのに対し、札幌ドームは 140 日の稼働である。国内のサッカー専門の競技場で言えば、平成 23 年度の実績になるが、例えば鹿島アントラーズのカシマスタジアムでは年間 79 日程度、浦和レッズの埼玉スタジアムでは年間 62 日程度であり、サッカー専門のスタジアムの稼働日はこの程度である。それに比べると、札幌ドームは 140 日ということで、稼働状況がかなり高いことは間違いない。稼働の中身を聞くと、天然芝の利用は 140 日のうちの 12 日であり、人工芝での利用が 128 日、うち野球の利用が 86 日であり、野球のウエイトが非常に高くなっている。札幌ドームの場合は芝が入り出す仕組みであり、基本的に芝は外にある。サッカーの試合があるときだけその芝が中に入ってくる形になっているが、芝を外に置いておく場所を確保することが大変である。ノエビスタジアムの場合は、ご存じのとおり周りには民家があり、横には広場があるが、一般市民の利用も多く、天然芝を置いておくのは実態として非常に厳しい。また、その地下は地下鉄の車庫になっている。よって、構造的にも札幌ドームと同様にすることは厳しいと考えている。

ただ、80 日の稼働で満足しているわけではない。ノエビスタジアムの活用は、地域の活性化にとって非常に重要な要素であることは間違いないと思っている。管理している神戸ウイングスタジアム株式会社とも一緒になり、一体となって集客事業の誘致に取り組んでいく必要があると思っている。

その考え方として、Jリーグのオンシーズンは 3 月から 12 月上旬までだが、この間は天然芝をキープしておく必要があり、天然芝の上でイベントを行うことは難しい。12 月中旬から 2 月までのオフシーズンは芝を養生する必要があるが、ある程度はその上を使っての利用も可能と考えている。フィールド自体は天然芝のゾーンだが、その横は人工芝を敷いているので、人工芝の部分については一年を通じてイベント利用が可能かと考えている。天然芝のオフシーズンと天然芝以外の通年の利用について集客事業を呼び、一年を通じて誘致することについては努めてまいりたい。

（北山議員）

年間 80 日しか稼働していないスタジアムではなく、80 日しか休館していないスタジアムであれば、インナーシティの核心問題の半分は解決すると考えている。このスタジアムが休んでいるときに、コンサートや企業の展示会などで予定がいっぱい入っている状態であれば、地下鉄海岸線の乗客問題は一気に解決し、JR 新長田駅の快速停車の問題も解決すると考えている。どこよりも住みよいインナーの町は活気にあふれ、人口問題も解決していくのは、自明の理であると考えている。そういう点から、副市長からは他都市の状況の話があったが、同じようなところばかり出さず、神戸はトップを行くくらい、年間 80 日しか休まないスタジアムにするにはどうすればよいのか、考えていただきたい。あれはインナーシティ対策のために造ったスタジアムである。インナーシティが大変な落ち込みになっているということで平成 5 年からやってきた。平成 6 年に夢をいっぱい描き、市民全員が賛成してスタジアム造りに取り組んだ。それが 80 日しか使われていない。他都市と変わらないのではなく、神戸独自でやってもらいたい。今管理しているウイングスタジアム株式会社があと 5 年で撤退すれば、だれも引き受け手がなくなるのは明白である。そこを考えると最初造ったときの原点に立ち戻り考えれば、今の答弁は出てこないと思うがいかがか。

(鳥居副市長)

ノエビアスタジアムの活性化は非常に重要な課題であると認識しており、他のサッカー専用競技場の稼働の状況についてはご説明させていただいたが、80 日で満足しているわけではない。使い方の議論はする必要がある。

先ほども申し上げたが、Jリーグのオンシーズンの 3 月から 12 月上旬については、芝生のコンディションに対する要求度が非常に高いため、天然芝を利用した集客事業は実施できないのが現状である。よって、オフシーズンと一年を通じた天然芝以外の部分での集客事業は、ウイングスタジアム株式会社とともに積極的な取り組みをさせていただきたい。

(北山議員)

実際のところ、スポーツでの利用では年間 48 件、38 万 5,470 人、スポーツ以外では 42 件、3 万 771 人、合計 41 万 6 千人である。これで満足していないと言われても、昨日今日の話ではない。もっと真剣に取り組んでもらいたいことを要望としておく。インナーシティの核であることを再認識していただきたい。

## 2. 医療産業都市について

(北山議員)

医療産業都市がこれまで以上に発展していくためには、一層の国際化を図るべきと考える。神戸が世界に誇るものとして iPS 細胞やスーパーコンピュータ「京」を活用した研究や創薬があるが、一方神戸で遅れている分野に強みをもっている海外の地域がある。こういった地域と連携することで、お互いが利益を生む関係を築く事が重要である。また海外の優れた研究機関や大学の医学部との連携はもちろん、神戸への誘致を積極的に進め、学術研究都市として発展させることも目指すべきと考える。例えば、ハーバード大学医学部の神戸校がポートアイランドに設置されれば、神戸の国際的なステータスは一気に上昇する。市長は国際戦略特区の活用を踏まえ、医療産業都市の最終到達点をどう考え、どう取り組んでいくつもりか、伺いたい。

(久元市長)

神戸医療産業都市は、平成 10 年の構想着手以来、15 年が経過し、現在、260 社を超える医療関連企業が

集積するとともに、iPS細胞を用いた世界初の臨床研究がスタートするなど、日本最大のバイオクラスターとして成長している。また、昨年にはスーパーコンピュータ「京」が本格稼働するとともに、中央市民病院の周辺には、高度専門病院群の集積が進んでいる。今後はこのような環境を十分に活かし、国内外の患者に対し先端医療も含め最適な医療を提供するとともに、革新的な新薬の開発を促進するなど世界に誇れるクラスターの形成を進めていきたい。一方、これまで以上に地元経済との結びつきを強め、地域経済を活性化するとともに、神戸の子どもたちにも情報発信し、将来の科学技術を担う人材育成にも寄与していきたい。先般、国家戦略特区の法案が成立した。この国家戦略特区の指定を受け、国家プロジェクトとして、神戸医療産業都市を推進することでアジア No. 1 のバイオメディカルクラスターを目指すことを目標に推進していきたい。

(北山議員)

医療産業都市を、医療産業学術研究都市というくらいにまで広げていただきたい。神戸港は随分前には世界第3位のステータスをもって、「みなと神戸」として世界に誇れたが、今は52位である。今度は医療産業学術研究都市で世界のトップを目指して、そのステータスを取ってほしいと思っている。そのために、ハーバード大学あたりを神戸に呼び、学校を建てていただき、神戸のステータスそのものを大きく引き上げていただきたい。そういう夢を持ち質問するが、この特区の提案の中にマイナンバー利用による先進医療というものがある。市長も総務省時代に住民基本台帳ネットワークに関わられていたことから、全国統一の個人番号についてはその功罪を含め、一定の見解をお持ちだと思う。マイナンバーと先進医療の組み合わせでどういう効果が表れるのか伺いたい。

(久元市長)

具体的にマイナンバー、共通番号を使って医療産業都市の研究展開にどう使っていくのかはこれから詰めていきたいが、本人の同意を得て、健康情報をどう把握し、活用していくかを考えていく。同時に医療情報については、非常にセンシティブな情報なので、個々の患者の病歴などは共通番号にはなじまないと考えており、そういうプライバシーにも配慮しながら活用することを検討していきたい。

(北山議員)

今の答弁のとおり、本人の同意を得る個人情報ということで慎重に取り組まなければならないということだし、同意を得て実現できれば市民一人一人に大変なメリットがあるということを説明いただけないか。

(久元市長)

共通番号を実際に医療に使うことについては、例えば医療機関相互の情報共有にメリットがある。同時に、病歴や病状、診療歴は個人のプライバシーにかかわる非常にセンシティブな問題なので、共通番号で使うかは慎重に検討していかなければならないが、共通番号を法令で定められた範囲でどう活用するか、そういう面もクリアしながら活用すれば大きなメリットになるので、これからの構想の中で具体的に検討してまいりたい。

(北山議員)

このような医療産業構想を進めていくには、スーパーコンピュータ「京」との連携や人材確保、ネットワークの広がりが必要ということで、ハーバード大学の誘致について伺ったが、一方で、地元の人材育成の視点も大切である。現在、理化学研究所などが行っている「京」と生命科学といった研究内容をもっとわかりやすく子供たちに伝える必要がある。未来の人材確保のために、神戸の高校生や中学生向けに副読本をつくってはどうか。

(久元市長)

スーパーコンピュータ「京」については、地元企業や様々な研究機関において使われており、新しい製品開発や災害予測といった面で大きな効果を発揮している。ただ、その内容についてはかなり難しいので、子どもが未来の科学技術に対して責任を持ってもらうためにも、副読本というのも有効な方法だと思うので、教育委員会とも相談しながら検討していきたい。

(北山議員)

2020年に東京でオリンピック、パラリンピックが開催されることが決定している。来年2月には委員会が結成される運びとなっているが、2020年に向けて神戸でも海外からの合宿を受け入れることなど、様々な取り組みを進める必要がある。矢田市長の時には、取り組みのための課長会議を発足させて検討を進めている。神戸は1980年にユニバーシアード、89年にフェスピックを開催した。その際に使ったスポーツ施設が老朽化していると思うので、その対策も含め誘致に必要な施設を積極的に建て替え、改修をすべきと考えている。健康スポーツは医療産業にもつながるし、スーパーコンピュータの活用を考えると、神戸独自の付加価値を持ったスポーツ施設ができると思うので、ハードだけでなく、理化学を駆使したソフト機能を持った施設建設に挑戦すべきと思うので、検討を要望する。

さらに国ではスポーツ庁を作り、健常者と障害者の区別なくスポーツとしての取り組みを進めつつある。神戸市では、健常者と障害者の組織が分かれているだけではなく、神戸市総合体育大会は、区対抗の市民スポーツと言いつつも障害者が含まれていない。こういうことをこの機会にぜひ見直していただきたい。

### 3. 教育・子育て・介護日本一のまちづくりについて

(北山議員)

市長は施政方針の中で、教育・子育て日本一のまちを目指すと言われている。教育については、矢田市長時代の平成25年度より「教育日本一のまち」を掲げ、取り組みが進められており、今後の取り組みに大いに期待している。一方、子育てについては、矢田前市長からは「子育て日本一のまち」を目指すとは明言をいただけなかったもので、ようやく私の主張してきたことが実現されると大いに期待をしているが、成果を出さなければ意味がない。どのようにして「子育て日本一のまち」を実現していくのか、見解を伺いたい。

かねてから主張してきた「介護日本一のまち」が施政方針に入っていない。介護という言葉をお忘れではないか。教育・子育て・介護の3本柱は市民にとって重大な問題である。介護についても、日本一を目指すという目標を掲げ、入所施設への待機高齢者問題などの解決を進める必要があると考えるが、見解を伺いたい。

(久元市長)

「子育て日本一のまち」の実現には、一つの分野に特化するということではなく、ライフステージごとのさまざまな課題に対し、ニーズに応じた有効な施策をバランスよく着実に積み重ねることが重要と考えている。そのため、全市をあげて、トータルに子育て支援の充実を図ることが重要である。

少子化が急速に進む中、地方自治体には、「子どもを産み育てやすい環境の整備」に力点を置いた役割が求められている。

神戸市としては、まず、「都市化・核家族化が進む中、安心して子どもを産み育てることが出来るよう、親の不安・悩みや孤立感を解消するためのきめ細やかな親に対する支援」、2つ目に、「女性の社会進出等を背景に、仕事と子育てが両立出来るよう、保育サービスの充実をはじめ、社会全体で子育てを支えるため

の環境整備」, 3つ目に、「障がいのある子どもやひとり親家庭, 社会的な養護が必要な児童への対応や, 児童虐待の防止など, 特別な支援が必要な子どもや家庭へのきめ細かい対応」, こういった視点のもと, 施策を推進していきたいと考えている。

子育ての分野については, 矢田前市長のもと, かなり施策の充実が図られてきている。私はこの路線を継承し, さらに推し進め, 「子育て日本一のまち」が実現できるよう全力を尽くしていきたい。

(玉田副市長)

施政方針の一つの柱である、「市民が地域とつながり福祉と医療をはじめ安心してくらせる街」の中に介護が含まれている。日本一という言葉は書いていないが, 他都市に誇れる介護を目指していきたいと思っており, 特養待機者の解消など, 様々な課題を解決していく必要がある。

介護保険制度は, 創設されてから約14年が経過し, 広く市民に浸透してきている。本市においては, 身近な総合相談窓口として「あんしんすこやかセンター」をきめ細かく中学校区ごとに1ヶ所ずつ, 全市で75ヶ所設けている。他都市に先駆けた本市独自の取り組みとして, 同センターに見守り推進員を配置し, 地域住民間で見守りができるようコミュニティづくりを支援している。このあたりは他都市に誇れることではないかと思う。今後もきめ細かな相談や見守り支援を行っていきたい。

また, 施設サービス・在宅サービスについても, ニーズに応じて着実に整備してきており, 計画的な整備を今後も進めていく。

特別養護老人ホームについては, 現在5,613床・95施設が整備されているが, 第5期介護保険事業計画に沿った整備が着実に進んでいる。これ以外にも, 介護老人保健施設, 認知症高齢者グループホーム, 有料老人ホーム, あるいはサービス付高齢者向け住宅といった施設・サービスについても十分整備を進めていき, 受け皿づくりについても進めてまいりたい。トータルとして他都市に誇れる介護を実現できるように今後も努めていく。

(北山議員)

「教育・子育て・介護日本一のまちづくり」について, 介護は間違いなく入れていただかないといけないと思っている。

神戸市は介護についても大変な努力をしていることはよく承知している。高齢者施設を求める人々は年々増え続けており, 施設を年々作っているのだが, 中々必要な人々の要望に応えきれしていない。その為に地域包括ケアシステムや住宅介護や医療の連携強化と努力をされているが, 市民の要望に十分応えるまでには至っていない。

高齢者やその家族の為に, 「医療や介護については高齢者自身にもその家族にも心配をさせない。」というメッセージを送っていただきたい。

#### 4. G8サミットについて

(北山議員)

最後に1点提案しておく。市長には真剣に取り組んでいただきたい。それは, 8年に1回まわってくるG8サミットである。2016年に日本が議長国になる。過去には東京3回, 沖縄, 北海道と開催されている。今度は神戸でやろうというぐらいの取り組みをぜひしていただきたいと思っている。神戸でやれば神戸空港に諸外国の首脳が全部乗り入れてもらって, エアフォースワンも来てもらったらよいと思っている。今から2年ちょっとしかないが, 今のところ手を挙げている都市はないという状況である。神戸の将来のために, ぜひ神戸が手を挙げてほしいということを要望しておく。